

2010年度 プログラム分析

1) 学生評価

(1) アンケート調査の趣旨

この調査は、より良いサービスラーニングプログラムの開発を目的として、平成 22 年度のサービスラーニング受講生 67 名を対象に実施した。

調査時期は、下記のとおり 4 回実施した。各調査の実施時期と趣旨、回答者数、調査項目等は以下のとおりである。

<実施時期と趣旨、回答者数>

回	実施時期	分析手法の概要	回答者数
第 1 回	4 月	サービスラーニング参加前の学生の意識と現状を把握する。	67 人 (回収率 100%)
第 2 回	7 月	活動開始直前の学生の意識と現状を把握する。	66 人 (回収率 98%)
第 3 回	9 月	活動終了直後の学生の意識と現状を把握する。	64 人 (回収率 95.5%)
第 4 回	12 月	報告会後の学生の意識と現状を把握する。	57 人 (回収率 85.1%)

(2) 調査結果

① サービスラーニングを選んだ理由

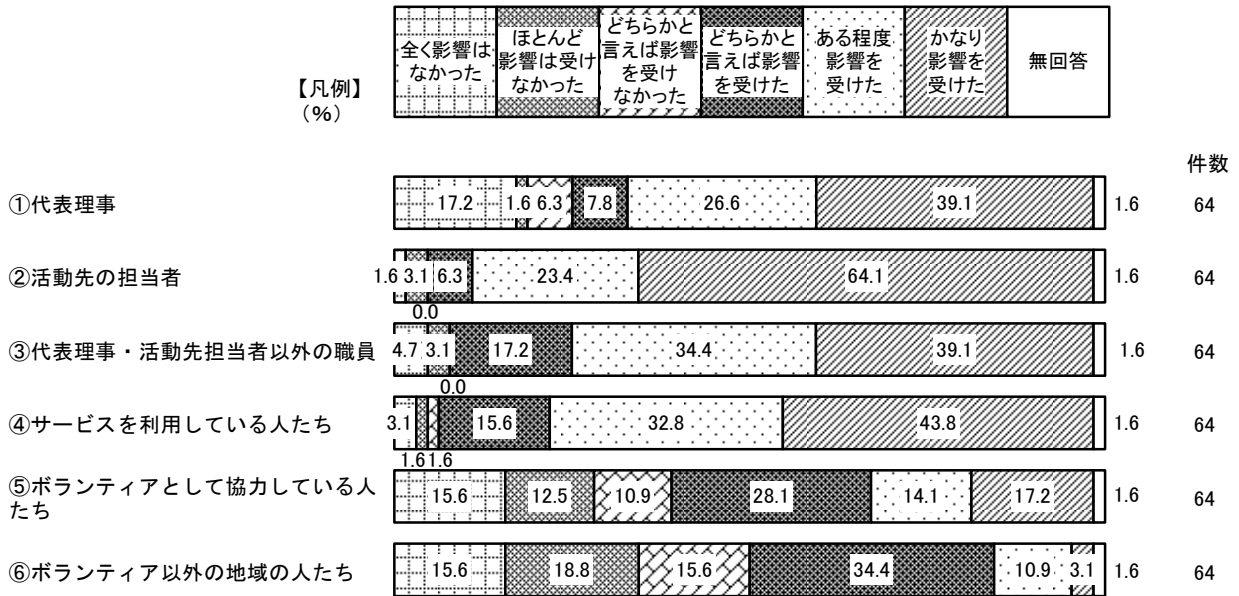
サービスラーニングを選んだ理由は、「現場の活動を体験してみたかった」が 18 件で最も多かった。次いで、「自分たちで計画・実行することに関心があった」が 8 件、「NPO に興味があった」「いろいろなことを経験することが必要だと感じた」がそれぞれ 7 件となっている。

No.	内容	件数
1	現場の活動を体験してみたかった	18
2	自分たちで計画・実行することに関心があった	8
3	NPO に興味があった	7
4	いろいろなことを経験することが必要だと感じた	7
5	地域福祉について学びたかった	6
6	サービスラーニングに興味があった	5
7	将来の役に立つと思った	5
8	積極的に取り組みたいと思った	4
9	2 年生の間に経験しておきたかった	3
	計	63

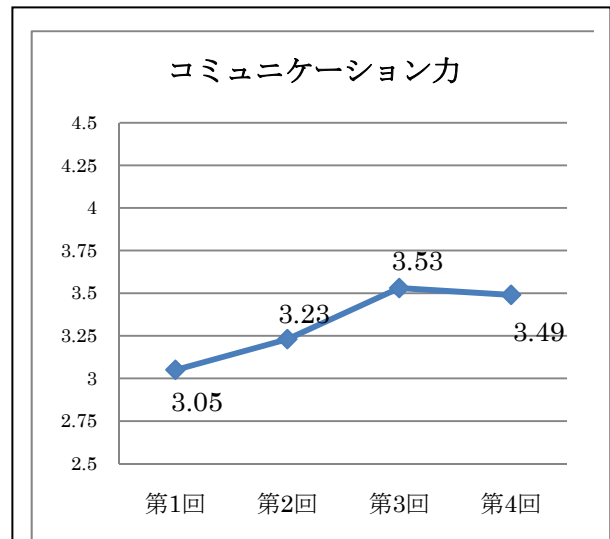
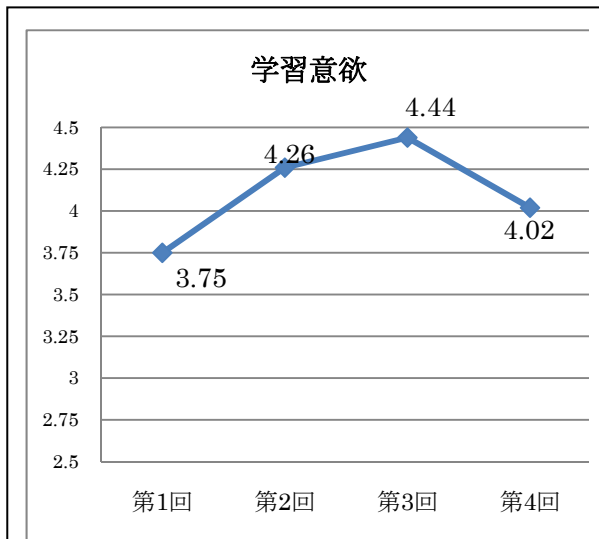
※67 人中 63 人が回答

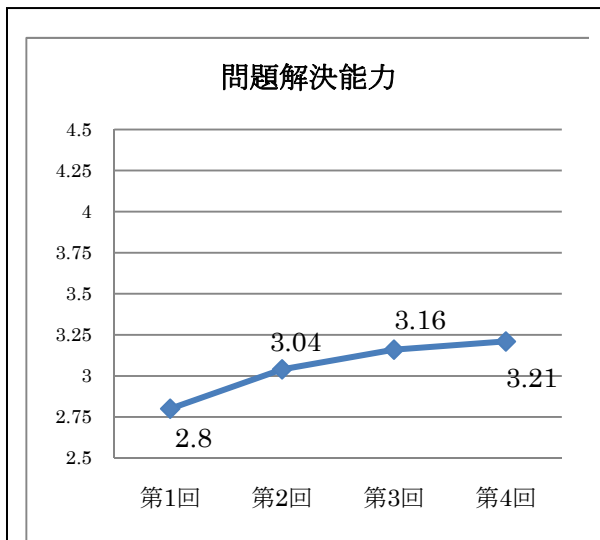
②活動先で影響を受けた人達

活動期間中に「影響を受けた※」は、「①活動先の担当者」が 93.8%で最も高く、次いで「④サービスを利用している人たち」(92.2%)、「③代表理事・活動先担当者以外の職員」(90.7%)の順となっている。



③自己形成力について





※ n=57
 (4回全てに回答した学生を対象とした)
【評価スケール】
 「5」とてもある 「4」 ややある
 「3」 どちらともえない 「2」 ややない
 「1」 全くない

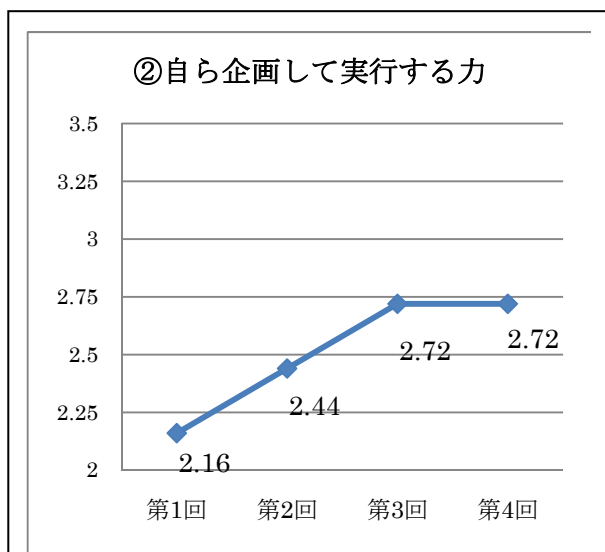
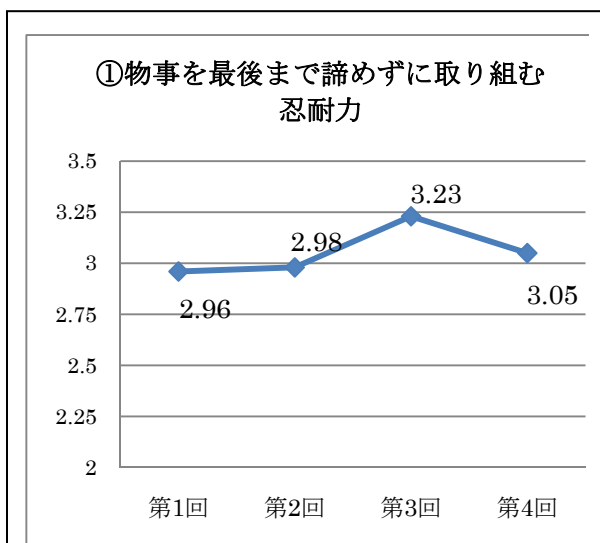
第1回から第4回までのすべてのアンケート調査で、自己形成力「①学習意欲」、「②コミュニケーション力」、「③問題解決能力」を自己評価してもらった。

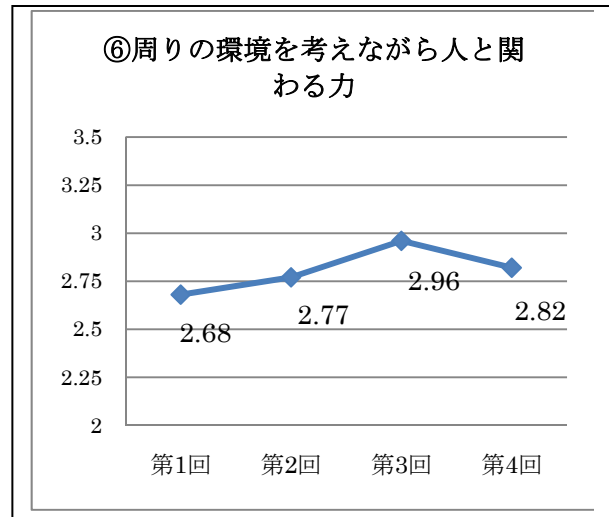
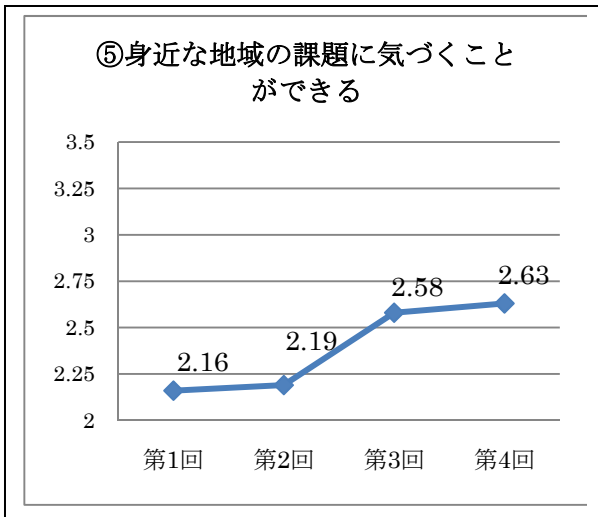
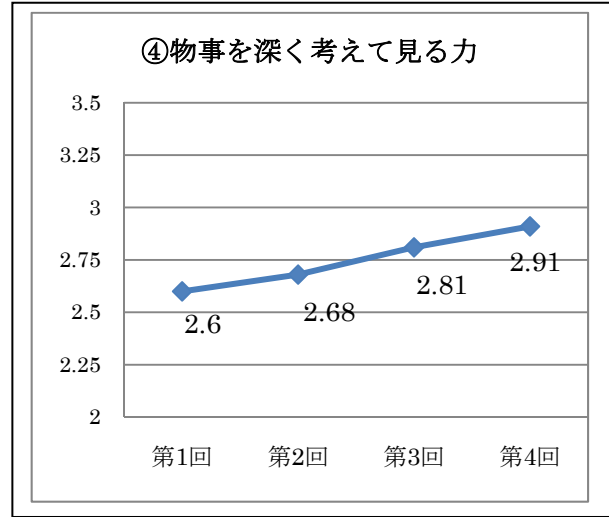
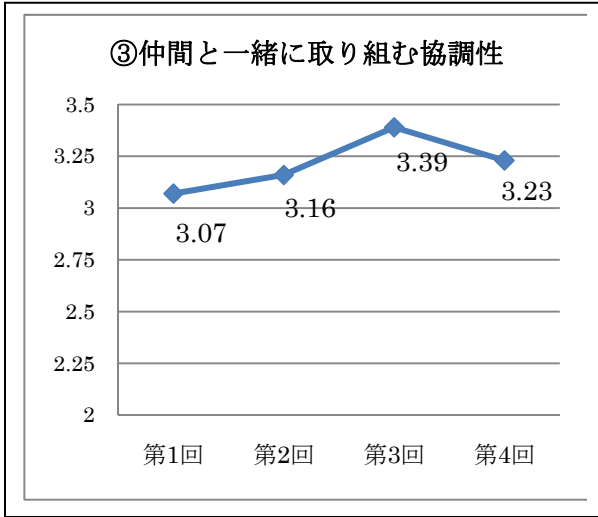
自己評価の平均ポイントから、サービ斯拉ーニング開始時に実施した第1回調査と、終了後に実施した第4回調査を比較すると、3項目の自己評価が全て上昇していることがわかる。

特に「②コミュニケーション力」(3.05⇒3.49)、「③問題解決能力」(2.80⇒3.21)の平均ポイントの上昇が大きく、サービ斯拉ーニングでの経験が力となっていることを実感している学生が多い。

また活動直後の第3回目と最終回との比較で、問題解決能力の回答が高くなるのは、最後の報告会をやり遂げた達成感も影響していると思われる反面、学習意欲が低下している点については分析が必要である。

④能力の自己評価





※ n=57 (4回全てに回答した学生を対象とした)

【評価スケール】「4」とてもよく身についている「3」身についている「2」あまり身についていない「1」身についていない

①から⑥の忍耐力、企画力、協調性、思考力などの6つの能力について自己評価してもらった。

第1回調査と第4回調査を比較すると、全ての項目の平均ポイントが上昇しており、学生自身が学習効果を実感している様子が見えてくる。特に、「②自ら企画して実行する力」(2.16⇒2.72)や「⑤身近な地域の課題に気がつく力」(2.16⇒2.63)などの平均ポイントの上昇が大きく、NPO活動等への参加という社会経験がこれらの能力向上をもたらしたとも考えられる。

⑤社会への関心について

社会の動き（社会問題や政治・経済）への関心度（平均ポイント）は、第1回調査（2.58）よりも第4回調査（2.72）と上昇し、サービスマーケティング等の活動や学習等の影響であると考えられることもできる。

また、社会福祉分野でのボランティア参加者は、第1回調査（10.5%）であったが、プログラム終了時の第4回調査（24.5%）と14ポイント増加した。

2) 活動先振り返りシート(NPO 法人)自由記述

(1) 学生の受入れをする上での困ったこと

事前打合せをもう少し丁寧になりたい。
学生のやりたい事と活動先のやってもらいたい事が違っていたので少し困った。
主にデイサービスの活動となったが、利用者さん帰宅後にしか指導伝達する時間が取れないので話す時間が取れない。
実習やボランティアとの違いを活動に反映させる事が難しいと感じている。
サービスマーケティングの位置付けを概念ではなく、もう少し具体的に大学側から提示して頂けると受入れし易かった。
受入れをする中でスタッフの力量不足で学生を迷わせてしまった。おかしかったのは、事前訪問で上はスーツで下はぞうりで来所、そんなに堅苦しくなくてもいいと思う。
夏休みという限られた期間の中で日程の調整。
参加する学生の意欲や自発性、物事に対する好奇心などが不足していた。
なかなか本題にとりかかることができなかつたり、とりかかったとしても互いに良しと思えるまでの効果が得にくい点があった。
小規模のDSですので1日の学生の受入れが2名が限度。
テーマの選択。相談助言の苦慮。
駅から遠いので送迎が必要

2) 今後大学との連携で期待したい事項

学生に関わらせて頂いて地域での活動の経験から、今後、卒業性が地域に興味を持ち、職場として地域づくりに係わって頂けるような連携システムを考えて頂きたい。
地域のNPOの事業をゼミ単位で1年2年かけて一緒に運営していく等、作りあげる作業をしていけることを期待している。
サービスマーケティングを継続していくことで地域の小学生の健全育成に貢献できることを学び、親

<p>子共に期待が大きく成果も私共が思っている以上にあったことを振り返っている。</p>
<p>学生の地域の社会資源として成長をサポートするのであれば、1～2年という長いスパンで一緒に活動してみないと、うわべだけになってしまう気がする。</p>
<p>祝日、土曜日など、学生さんが活動しやすい授業日程を一緒に考えていきたい。</p>
<p>学生さん同様、先生方も現場で感じる機会をたくさん作ってほしい。</p>
<p>サービラーニングで学んだ学生達だけでなく、今後も横のつながり連携を大切にしていきたい。サービラーニングの期間だけでなく3・4年次の社会福祉と演習Ⅰ・Ⅱでも実習できる施設として選択できる道を開きたい。</p>
<p>学生にとってNPO法人で学ぶことが社会人になってから生かされること。</p>
<p>とても良い学校。時流にマッチングした学校なので孫に進めたい。</p>
<p>各学生に対して、先生方の望む思いも前もってお聞きできたら一人一人に対してよりよい関わりができるような気がする。</p>
<p>ボランティア・ヘルパーの紹介。</p>
<p>通信及び特別行事への貴校学生のボランティア依頼、及びアルバイト希望者の紹介(仲介)</p>
<p>現在の活動で満足しています。</p>